

おだわらじょうあと  
はちまんやまいこうぐん

## 小田原城跡 八幡山遺構群

(小田原市No.77 遺跡)

調査期間 20080519～20080930

所在地 小田原市城山

時代 中・近世



作成日:20080825

### 概要

本調査は県立小田原高等学校整備工事に伴い、県教育委員会教育局の依頼を受けて行われている埋蔵文化財発掘調査で、八幡山遺構群の調査としては第4次調査になります。

小田原城跡八幡山遺構群はJR小田原駅の西方、箱根外輪山より南東に伸びる通称八幡山丘陵と呼ばれる丘陵の中腹に位置します。

八幡山は「八幡山古郭」とも呼ばれ、初期小田原城の中心域とされています。八幡山遺構群は本曲輪、西曲輪、南

曲輪、古宮曲輪、<sup>ほんぐるわ</sup>藤原平などで構成されています。今回の調査では小田原高等学校の旧校舎が位置していた「西曲輪」にあたります。

主な遺構として、第1・3次調査でも確認されていた西曲輪西堀、本曲輪北堀、そして旧校舎の北に位置する三味線堀があげられます。特に西曲輪西堀は最大幅 23mという巨大な堀であったことが確認され、関東大震災の影響と考えられる地層のずれ等があるものの比較的良好に残されていることが分かりました。深さについては現在も調査中ですが、3次調査の結果も含めると6m以上になると考えられます。前回までの調査では堀以外の中世の遺構は希薄ですが、弥生～古墳時代の竪穴住居や古代の掘立柱建物、近世の土



▲1区 西曲輪西堀土層断面



▲1区 西曲輪西堀 深掘り作業状況

坑などが見つかっています。また、小田原高等学校に関わる遺構として、大正3年に建てられた校舎の基礎が挙げられます。基礎は煉瓦造りで、煉瓦に押された印から埼玉県深

じょうしきめん  
谷市の上敷免で作られた煉瓦であることも分かりました。